

平成 26 年 10 月 1 6 日

南 の 風 8 4

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

横浜市大会が終わりました。熱い戦いがたくさん見られました。接戦も非常に多く、白熱したゲームが大変多かった印象です。結果を書きます。

《男子》	優勝	川上北	《女子》	優勝	榎が丘
	準優勝	原三ツ境		準優勝	小菅ヶ谷
	第3位	東希望が丘		第3位	戸塚
	第4位	戸塚		第4位	山田

優勝しました、男子の川上北、女子の榎が丘チームの皆さん、チーム関係者の皆様、おめでとうございます。特に男子の川上北チームは、常に接戦のゲームを勝ち抜き、見事頂点に立ちました。一方女子は、榎が丘チームが大会を通して安定したチーム力で、危なげなく春に続いて頂点に立ちました。

皆さんご承知のように、この大会は関東予選も兼ねています。横浜地区からは、男女とも10チームが、10月19日（日）より寒川地区、秦野地区、平塚地区で行われる、関東大会神奈川県予選に出場します。詳しくは、神奈川県ミニ連のホームページをご覧ください。横浜南部連盟からは、男子は洋光台、女子は六ッ川、藤の木チームが出場します。南部連盟のチームの活躍を心より祈っています。

なお、男女上位2チームが、平成27年1月10日（土）～12日（月）群馬県で行われる、第36回関東ミニバスケットボール大会に、神奈川県代表として出場します。神奈川県予選に出場するチームの皆さんの健闘をお祈り致します。

さて、ドリブルドライブモーションオフェンスと、オフェンス、ディフェンスの指導の留意点について3号にわたって書きましたが、先日中学校の新人大会を観戦にいった折に、何名かの中学の指導者の方に質問を受けました。ちょっと取り上げてみます。

A指導者の方からは、「ドリブルは結構できるが、ディフェンスがくるとすぐに止まって、ボールをピックアップしてしまうことが多いのですが、どうすればいいか。」というものでした。確かにかなりドリブルが上手な選手でも、ディフェンスのプレッシャーに負けてしまい、ドリブルを止めてしまったり、下を見てしまったりすることは見られます。中々特效薬のようなものはないと思います。大事なことは、選手が身体接触を嫌がらないようにしていくことだと思います。そのためには、ドリルを組む時にハードなディフェンスを経験させるとか、ショルダーアタックを繰り返し行うとか、ドリブルドライブの時に、常にフェイスアップし、ヘルプサイドのディフェンスを見るようにすることが大切になってきます。そしてヘルプがくれば、いつでもキックアウトできるようにしておくことです。さらに基本となるドリブルは、強く身体の外側で突くことも忘れずに取り組みたいことです。

B氏からは、「83号に書いてありましたが、うちのチームでも、ポストの合わせや、パス&ランのようなオフェンスプレーを指導する時に、繋ぐプレーでつまずきが多く、肝心な合わせができずに困っています。」というものでした。このことは、中学よりミニに多く見られる現象です。経験が少ないプレーヤーほど、単純なミスが多くなるものです。指導が進まないということです。次号に続きます。